

甲子園の全国高校野球大会で、準優勝した台湾の旧中学校があった

1931年（昭和6年）、甲子園の第17回全国中等学校優勝野球大会（現在の全国高校野球選手権大会）で、初出場ながら準優勝した台湾の中学校があった。その名は“台南州立嘉義農林学校野球部”（略称「KANO」）。

高校野球では、おらが県（都道府県）の応援で、日本中が盛り上がりました。しかし、当時の台湾の熱狂は、現在の高校野球の応援の比ではありませんでした。なぜならば、植民地で統治されている台湾の中学校が、統治している日本の中学校を連破して、決勝まで勝ち上がったからです。「KANO」には日本人の監督や選手がいました。しかし、「KANO」は、台湾人に自分達は日本人ではなく、台湾人だというアイデンティティを呼び覚ましたのです。

映画のタイトル『KANO』（2014年製作、15年に日本で上映）とは、嘉義農林学校野球部のユニホームの文字で、日本語の「かぎのうりん」に由来しています。日本から赴任して来た教師の熱血指導により、台湾人（当時高砂族と呼ばれた原住民と漢民族）と日本人からなる嘉義農林学校野球部が、血の滲むような努力とチームワークで、1931年に甲子園で行われた第17回全国中等学校優勝野球大会において、初出場で準優勝した物語です。

日本の台湾統治と原住民の反乱—霧社事件

「KANO」の前年、1930年（昭和5年）には「霧社事件」が起こっています。

「10月27日未明、モーナルルーダオ率いるセディック族の蜂起部隊（霧社11集落、約2,200名の内6集落の約300名）は、霧社分室管内の各駐在所を次々に襲撃し、巡査と家族を殺害、大量の武器を手に入れた。そして、日本人学校と台湾人公学校・蕃童教育所の連合運動会の会場に突入した。この日、日本人入植者227名中134名が殺害され、26名が重傷を負ったのである。

蜂起の原因には、彼らの習慣を無視した性急な同化政策、官憲による圧政、搾取などが挙げられるが、結局、太古から住む地を奪われた民族の抵抗戦争といえるだろう。

事件発生が伝わると、日本当局は警察だけでなく軍隊尾も動員し、蜂起に参加しない「見方蕃」を戦闘部隊に総攻撃を開始した。蜂起部隊はゲリラ戦でこれに応戦したが、日本当局は航空機による爆撃や毒ガス弾を使用し、50余日後にやっとこれを鎮圧した。このときセディック族蜂起部隊の戦死者は160名、主導者を含めた自殺者は140名、ほかに400余名が行方不明、500名が投降したといわれている。

事件後、台湾総督以下、総務長官、警察局長、台中州知事などが更迭され、山地政策はさらに強化されていった。これが霧社事件のあらましである。」（三上 美穂『地球の歩き方 台湾』ダイヤモンド社）。霧社事件は、台湾映画の大作『セデック・バレ』（2011年製作）で描かれています。

【中央ロータリーの噴水地にある「KANO」の呉明棲投手の像（嘉義市 台湾）】



【我が歌姫 テレサ・テン（1953年1月29日生～95年5月8日亡）の墓（新北市金山區 台湾）】

